

1 平成30年度 小教研道德部会 研究主題

語り合い深め合う学びを通して、自己の生き方を考える子供を育てる道德教育

2 研究主題の趣旨

(1) 研究主題設定の背景

社会は、グローバル化の進展と絶え間ない技術革新等により、急速に変化している。そのため、これからの学校では、一人一人の子供が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くことができるようにすることが求められている。また、情報通信技術の発展に伴う子供の生活の変化、地域や家庭の教育力の低下、自己肯定感や社会参画への意識が低いことが指摘されている。こうしたなか、道德教育においては、いじめ問題への対応を発端として現実の困難な問題に主体的に対応することのできる実効性ある力の育成が強く求められ、道德教育が期待される役割を十分に果たすことができるように改善を図ることが重要とされた。

このような状況を踏まえ、道德教育の充実を図るため、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育とその要としての道德の時間の役割を明確にした上で、子供の道德性を養うために、適切な教材を用いて確実に指導を行い、指導の結果を明らかにしてその質的な向上を図ることができるよう、本年度より、道德の時間が「特別の教科 道德（道德科）」として教育課程に位置付けられた。この「特別の教科」化は、多様な価値観の、時には対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道德としての問題を考え続ける姿勢こそ道德教育で養うべき基本的資質であるという認識に立ち、発達段階に応じ、答えが一つではない道德的な課題を一人一人の子供が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道德」「議論する道德」へと転換を図るものである。

平成29年度徳島県小学校道德教育研究大会会場校、南小松島小学校においては、日々の様々な体験活動を授業に生かしながら道德教育の研究が進められた。めあての類型化、めあてと中心発問の分類・整理、多様な教材の活用の工夫などを行い、語り合い深め合う学びのための指導の在り方が示された。また、授業の振り返りシートや振り返りメモによって、子供の学びや成長の評価とともに授業の分析・改善に取り組んでいた。これらの研究は子供たちが問題意識をもち、道德的価値を自分自身との関わりで捉え、多面的・多角的に考える学習へ向かうものであった。

そこで、本年度は昨年度の成果を生かし、さらに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、引き続き「語り合い深め合う学びを通して、自己の生き方を考える子供を育てる道德教育」を研究主題として掲げる。

(2) 研究主題について

「自己の生き方を考える子供」とは

「自己の生き方を考える子供」とは、「自己を見つめ、生き方についての考えを広げ深めるとともに、自らの生き方を育てていく子供」と捉えたい。

「自己を見つめる」とは、自分との関わり、つまり、これまでの自分の経験やその時の考え方、感じ方と照らし合わせながら、自分自身について考えることである。日常生活では、これまで培われた道德的価値を基に判断したり行動したりしている。しかし、そのことを常に意識している子供は少ない。また、道德的価値への考え方や感じ方はどうであるかと意識することも少ない。

授業においては、ねらいとする道德的価値と照らし合わせながら、自己の内にある道德的価値への考え方や感じ方に改めて気付き、知ることができる。また、他者と対話したり協働したりすることで多様な考え方や感じ方にふれ、生き方についての考えを広げたり深めたりすることができる。

このような自己を見つめる学習を通して、道徳的価値の理解*と同時に自己理解を深めることができる。

「生き方について考えを広げ深める」とは、どのように自己の道徳的価値への考え方や感じ方が広がり深まったかを強く意識するとともに、これまでの自分の生き方はどうであったかを道徳的価値の理解を基に振り返ったり、これからの生き方の課題を考え、それらを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めたりすることである。授業においては、他者と思いや考えを語り合うことで、これまで培ってきた自分自身の考え方や感じ方に新たなものを加えたり、考え方を変えたり、また、より確かなものとしたりすることができる。そして、道徳的価値を基に自分を振り返り、内面的な成長に気付いたり、これからの課題や目標を見付け、自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めたりすることもできる。

「自らの生き方を育てていく」とは、日常生活や今後出会うであろう状況において、よりよく生きるために、道徳的価値を実現するための適切な行為を選択し、実践することができるような内面的資質を子供自ら育てていくことである。それは、人間として生きるために道徳的価値が大切であることを理解し、様々な状況において、人間としてどのように対処することが望まれるかを判断し、行動に移していく力につながるであろう。自己を見つめ、生き方についての考えを広げ深めることのできる学習を具現化することにより、道徳科の授業だけではなく、日常の生活の中で誠実に課題に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢をもった子供を育てることができると思う。

「語り合い深め合う学びを通して」とは

子供が自己を見つめ、生き方についての考えを広げ深める授業とするには、「語り合い深め合う学び」が不可欠である。相手を理解しようとする姿勢で語り合い、聴き合う。子供一人一人が各々にもつ思いや考えを交流させる。こうして、学びを深め合うことで、自己の道徳的価値への考え方や感じ方を再考したり、ねらいとする価値を深く理解したりすることができる。また、深め合った価値理解を基に、物事を多面的・多角的に考え、これまでの自分を振り返ったり、現在の自分を見つめたり、これからの自分について考えたりすることで、自己の生き方についての考えを深めていく。このような学びによって、「自己の生き方を考える子供」を育てることができるのである。

授業においては、まず、子供自身が「語りたい、学びたい」という課題意識や課題追求への意欲を高め、学習の見通しをもつことができるようにすることが大切である。そのためには、道徳的価値や子供自身の生活について多様な観点から捉え直し、自らが納得できる考えを導き出す上で効果的な教材を選択し、その教材の特質を生かすことが必要である。それとともに、子供一人一人が意欲的で主体的に取り組むことができる表現活動や話し合い活動を仕組んだり、学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動を工夫したりすることが必要である。その際、特定の価値観の押し付けにならないようにするとともに、学年段階に応じて、主体的かつ効果的な学び方を工夫することが大切である。例えば、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる、またこれらの要素を組み合わせた様々な展開など、教材に応じて効果的な学習を設定するのも、その工夫の一つである。他にも、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の生き方についての考え方を広げ深める観点から、話し合う活動や書く活動など子供一人一人の考え方や感じ方を表現する機会を充実し、自らの道徳的な成長を実感できるようにすることが大切である。いずれの工夫においても、子供の実態を見据え、指導の意図に即して、適切か否かをしっかりと吟味することが必要である。

子供は、様々な人との出会いなどを通して、このような生き方がしたい、このような生き方ができる自分になりたいと自己の生き方を考えるものである。そこで、自己の生き方について考えるきっかけとなるような各教育活動や日常生活での豊かな体験を道徳科の授業に生かすことで、「語りたい、学びたい」学習とすることもできる。そのため、各教育活動等で養われた道徳性が、道徳科

* 道徳的価値の理解・・価値理解，人間理解，他者理解を含む。

の授業で調和的に生かされる道德教育を展開することが肝要である。道德科の授業のねらいが各教育活動等とどのように関連しているかを意識して、計画的・発展的にそれぞれの学習が行われることにより、子供の道德性は一層豊かに養われていく。このことを前提にして、子供が自ら語り合い深め合う学びにしていけるためには、発達の段階を踏まえながら、豊かな関わりをもつことのできる体験活動や学習を展開することが望まれる。また、子供一人一人は違う個性をもった個人であり、それぞれ能力・適性、興味・関心、性格等の特性等は異なっていることを踏まえ、学校や学級の実態に応じて教育活動を実施していく必要がある。このように、子供の実態を把握するためには、教職員全員の共通理解の下、子供を見取っていくことはもちろん、家庭や地域との連携を密にし、より道德教育の充実を図ることが重要である。

3 研究内容と留意点

(1) 道德教育推進のための指導計画や推進体制、指導力の向上

- ・学校の道德教育の方針を具現化する工夫
- ・学校の特色を生かした指導計画の工夫
- ・道德教育推進教師を中心として、全教職員が力を発揮できる推進体制の工夫
- ・指導方法等に関する教員の指導力向上を図る工夫

(2) 多様な学習指導の構想

- ・導入、展開、終末の各段階における指導の工夫
- ・道德科に生かす指導方法の工夫
 - （「教材を提示する工夫」・「発問の工夫」・「話し合いの工夫」・「書く活動の工夫」・「動作化、役割演技等の表現活動の工夫」・「板書を生かす工夫」・「説話の工夫」など）
- ・他者と対話したり協働したりして多面的・多角的に考えることのできる指導の工夫
- ・多様な教材を生かした指導の工夫
- ・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道德的行為に関する体験的な学習など、質の高い多様な指導方法の工夫
- ・情報モラルと現代的な課題に関わる指導方法の工夫

(3) 道德科の授業と各教科等、体験活動等との関連及び家庭や地域社会との連携

- ・各教科等における道德性の育成に資する学習の工夫と、それらを道德科の授業に生かす工夫
- ・体験活動の重視と、それらの体験を道德科の授業に生かす工夫
- ・道德科の授業における学びを各教科等、体験活動等に生かす工夫
- ・学校の道德教育に関わる情報発信の工夫
- ・学校と家庭や地域社会の相互連携についての工夫
- ・道德科の授業の積極的な公開や参加協力を得る工夫
- ・地域教材の開発や活用への協力を得る工夫

(4) 道德教育における評価

- ・組織的、計画的な評価の推進の工夫
- ・指導計画や指導方法等の改善を図る評価の工夫
- ・子供が自己の心の成長を実感できる自己評価の工夫
- ・道德科の授業における、子供の学習状況や道德性に係る成長の様子を把握する工夫
- ・発達障害等のある子供や海外から帰国した子供、日本語習得に困難のある子供等に対して配慮した評価の工夫

参考・引用文献

『今後の道德教育の改善・充実方策について（報告）～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～』
平成25年12月26日 道德教育の充実に関する懇談会

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』平成29年6月 文部科学省

『考える道德への転換に向けたワーキンググループにおける審議の取りまとめ』平成28年8月26日 文部科学省